

# 立三かわら版 Vol. 65

## ご挨拶 町会員の皆様へ



立三かわら版 総務広報部の小林です。

町会行事にカメラを持ってウロチョロしているカメラジジイです。

皆さんの明るい笑顔や、楽しそうな顔を撮りながら、いつも、自分も幸せな気持ちになっております。これからも行事の際には、カメラを持ってウロウロしている私を見かけるかもしれません。

その時は皆さんのすばらしい一瞬を撮らせていただき、立三かわら版に載せさせていただきます。

乾燥する冬、山火事も多い！  
でも、我が下町の町内は穏やかだった！



できれば町会員の皆さんの声を掲載していきたいと思っています。行事等の思い出や苦労話など、ちょっと思いついたコメントでも結構ですので広報部までお寄せください。

## 企画展 石碑でたどる隅田堤植桜の歴史より

昨年、すみだ郷土文化資料館の企画展で見聞してきたのでご紹介します。

隅田堤の桜は、享保10年に木母寺境内と隣の御前場に江戸城御庭の桜樹が移されたことが始まりだそうです。後に18世紀末から徐々に南に延びてきて明治初期には旧水戸藩邸側の現枕橋に到達します。木母寺からの距離は、およそ2キロメートルにおよぶと言います。

### 隅田堤桜花詩碑 木母寺



桜が芽吹いた頃には、足を運んでみてはいかがでしょうか？

文政3年、当時高名の儒学者として知られた亀田鵬斎は、墨堤の桜をたたえる漢詩を作り、これを隅田村の名主坂田三四郎に贈りました。この碑は、その漢詩を彫刻したもので、区内の木母寺にあります。

### 「天下の糸平」の碑 木母寺



田中平八は、屋号を糸屋と称し、両替商として店を開いた有数の豪商。明治24年には伊藤博文が木母寺に「天下の糸平」の石碑を建立するほど経済発展に貢献した立志伝中の人物です。

### 石造墨堤永代常夜燈 隅田公園



明治4年3月、須崎村地主と百姓たち(氏子17名)が発起人となり、東京府に設置許可申請して建立。牛島神社に奉納されました。小林清親の作品をはじめ、絵画により桜の名所墨堤の風物詩となり、現在は隅田公園内にあります。

